



京都大学アジア研究教育ユニット
アジア親密圏/公共圏教育研究センター
公開セミナー



ポスト戦後の社会史に向けて 「失われた20年」における雇用の変容

講師： アンドルー・ゴードン教授（ハーバード大学）

日時： 12月19日（金）17:00～19:00

場所： 社会学共同研究室（京都大学文学部新館5階）

非正規雇用の増加は、日本の雇用形態を大きく揺るがす顕著な変化であると危惧されている。普通、この変化を語る時の出発点は、1980年代の非正規社員数の割合が15%だったのに対し、今では35%以上にまで上昇しているという数字である。さらに、この現象は晩婚化、少子化、消費率の低下、格差の拡大等、様々な問題と関連づけられてる。この語り方は的を得ているところがあるものの、誤解をもたらす側面もある。今回の講演では、非正規雇用労働層の増加の発端とその特徴の全体像を明らかにしてゆきたい。

アンドルー・ゴードン博士はハーバード大学、リー&ジュリエット基金歴史学部教授。近代日本の労働史、政治史、社会史と著書の分野は多岐にわたり、広く使われている近代日本史の教科書の執筆も手がける。日本語で入手可能な著書に『日本労使関係史 1853-1955』ハーバード大学出版、1985年（日本語翻訳版：岩波書店、2012年）、『ミシンと日本の近代—消費者の創出』カルフォルニア大学出版、2011年（日本語翻訳版：みすず書房、2012年）、そして『日本の200年—徳川時代から現代まで』オックスフォード大学出版、2013年（日本語翻訳版：みすず書房、2013年）など。



使用言語
日本語

問合せ先 TEL: 075-753-2703 or 2805

参加無料・当日参加歓迎